（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390800102		
法人名	社会福祉法人　菊寿会		
事業所名	グループホーム　明日葉		
所在地	熊本県　山鹿市　菊鹿町　長　529番地		
自己評価作成日	令和2年9月20日	評価結果市町村受理日	令和2年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	令和2年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑豊かな山間の自然にあふれる中、木造平屋建ての環境に優しい「地中熱」を取り入れた住まいである。また、建物の周りには、栗園があり自然を満喫できる環境である。地域や地域住民との交流も定着しており、地域の中で住み慣れたご自宅と近い環境で生活を送られている。利用者の状態に合わせた個別ケアを行いながら御家族とも信頼関係を築き、御利用者と一緒に楽しまれるような計画を実施している。食事は、なるべく地元の食材を利用し、季節感のある料理を心がけて作っており、ご利用者の楽しみとなっている。また、利用者が自然の環境の中で、ゆっくりと楽しく暮らして頂けるような雰囲気を心掛けて支援を行っている。また、グループホームより本体特養に入所されたご利用者の面会を行い、関わりを絶やさないよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

今年度のホームは、コロナ禍や豪雨、猛暑等厳しい環境の中で、超高齢化にある入居者の日常に全職員が試行錯誤しながら"出かけたい・楽しみたい"思いを実現させている。例として、出来ることに注視した日常や非日常（101歳になっても洗濯物たたみや野菜の選別、ホーム内での夏祭り等）は笑顔を引き出し、ドライブで喧騒を楽しんでいる。また、研修を重ねながら、介護記録や情報の共有化としてICT化を図る他、感染症委員会等による話し合いや、防護服の着脱訓練等危機管理、意識の高いホームである。これまでの地域との関係性も継続され、家族会が開催できない分、様々な情報発信方法を駆使しながら共有化としている。これまでの積み重ねにより、困難な状況の中にあっても入居者・家族・地域・職員との一体感が溢れる、温かいホームが形成されている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

グループホーム明日葉

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、本体の理念と共に明日葉ホールに掲示している。また、開設当時より、スタッフのロッカーに貼り、この理念に基づきそれに沿った支援を行っている。	開設時から入居者の“らしく生きたい”、それを支援する職員の思いをもとに、全てが地域の中でえがおで共に輝いた暮らしを謳い、その実現に真摯に取り組むホームである。重要事項の中で家族に、運営推進会議の中では地域等に向け啓発しており、入居者・家族・近隣住民とホームとの関係性が構築している。コロナ禍という困難な状況の中、職員個々が考えたケアに努める事で入居者の笑顔を引き出し、その事例が職員のやりがいに繋げており、理念の実践の成果が如実に表れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	3月の地域の敬老式典には、毎年案内を受けているが、本年は新型コロナウイルス感染防止の為欠席させて頂いた。5月から10月の第2日曜日の作業には、スタッフ2名ずつ参加し地域の皆さんと一緒に汗を流している。集落より離れているにも関わらず災害時や12月の夜警にも来て頂いている。7月の大雨時には、見回り中危険個所を何度も知らせて頂き、その後も被害の様子等を見回りされていた。	コロナ禍の中で、地域との交流は難しい現状にあるが、毎月の地域の作業には職員が出向き、豪雨時の消防の見守りや夜警、声掛け等地域との心強い関係が築かれている。また、地域からの入居者も多く、昔ながらの近所同士という関係性にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は、近隣のふれあいサロンや他の地区のサロン参加は、新型コロナウイルス感染防止の為欠席している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月より新型コロナウイルス感染防止の為、会議は中止となり、活動報告書を委員の皆様に郵送している。	今年度の運営推進会議は、報告書送付としているが、昨年度は外部評価結果や運営推進会議議事録の配布・説明による情報の共有化としている。また、再スタート時には開催場所の変更及び感染対策を徹底したなか、充実したメンバーで開催され、活発な質疑応答がなされている。コロナ禍の中での対策や職員のケア姿勢が垣間見られる会議である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5 : :	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアプランの提出はその都度行っている。運営推進会議が3月から中止の為、連絡等は電話にて対処している。	行政とは電話等により相互連携を図るとともに、大雨対策等のハード面での協力を得ている。また、ケアプランの提出等行政との良好な関係性を継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体的拘束適正化検討委員会にて「拘束はしない」を各部署と確認している。また、床センサー　ベッドセンサーを使用する事で臥床時の拘束をしない工夫を行い、ベッドより下りられても怪我に繋がらないように夜間は床にマットを敷いて事故につながらないようにしている。	拘束の無いケアの実践に、毎月の身体拘束適正化委員会や職員会議の中での話し合い、コロナ禍の中で職員のストレスに注視し再研修し認識を深めるとともに、特に言葉遣いや精神的な部分に注意喚起している。事故防止の一環としてセンサーマット使用について委員会の中で検討し、家族への説明、同意のもとプランに組み入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎年4月の全体研修で法令遵守の研修を行うが、本年は、感染防止対策が緩和された6月に行われた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている利用者はおられない。施設内外の研修も受ける機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と契約書について説明を行い、納得されたことを確認して同意をお願いしている。「リスク説明書」と「急変時および重度化時の対応における事前意志確認書」「医療体制の説明同意書」の説明を行い、納得された事を確認して同意をお願いしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の折りにご家族の意向を尋ね、ケアの在り方などの説明を行っている。ケアマネを中心にケース会議を行い、必要な場合は管理者、看護師、ホーム長も同席している。開催できない場合は、ご家族に電話でお話を聞きご意見を反映している。毎月の手紙により情報を発信している。また、家族会、運営推進会議等の家族の意見や要望を活用するよう努めているが本年は、新型コロナウイルス感染防止の為、活動報告　運営推進会議の内容等を書面にて郵送した。	家族の訪問（定期薬や排せつ用品の持ち届け時等）家族の意向等を聞き取りしている。また、現在家族との面会が難しい部分、写真や新聞により情報発信、ラインやTEL等家族との関係が途切れないよう駆使している。ほとんどの入居者が90歳以上であり、日々の情報発信により家族との共有化を図っている。	家族との接点として、日々の暮らしを”あしたば通信”に載せた情報発信は大いに評価できる。職員の日々の工夫も垣間見られ、笑顔ある日常が映し出されている。今後も、家族の忌憚の無い意見や要望等をホーム運営に生かされることと大いに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や日常の中で意見交換を行いながら、サービス向上に努めている。緊急な場合は、ミニ会議を行い申し送りノートや伝言メモにより全スタッフに報告し周知徹底をしている。半年に1回の個別面接時にも意見や提案等の聞き取りをしている。	職場会議、ケース会議や日々の職員の気付きや薬の変更などメモとして記し、共有している。また、コロナ禍の中で、入居者の年齢的な部分も視野に、〝今できる事”に視点を置き、室内で出来る事、例として夏祭り等創意工夫した日常生活に職員のスキルや意識の高さが表出している。ホーム長による個別面接の他、管理者を中心とした日々の職員同士の意思疎通の良いホームが形成されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を取り入れており、年に2回（上期、下期）個別面接を行い、本人の意欲（目標）の達成感等を聞いたり助言を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本体施設の全体研修は、新型コロナウイルス感染防止の為2月から5月まで中止となり、緩和された6月に行われたが、山鹿市管内でコロナ感染発症感染拡大により7月は中止となった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染防止の為、県の総会及び研修が延期となり、山鹿菊池ブロックグループホーム総会及び研修等も延期となっている。但し、加入しているグループホーム間との情報交換などは、常日頃から行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に合わせ、会話が出来る方達と同じテーブルへセッティングしコミュニケーションが取れるよう介入する。環境変化に対する不安があり職員の目の届きやすい場所へ居室配置を行い相互の安心感を得る。本人の訴えを傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望される時、まず施設見学をすすめる。事前調査時に困っておられる事や不安な事を聞いて、できるだけ解消できるように支援の提案を行い信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の段階で本人及びご家族が一番必要としている事をスタッフが共有しながら支援し、状況に応じてご利用者とご家族が電話でお話をされ、不安を取り除く工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力や身体機能に応じ、洗濯物たたみ、食器お盆拭きなど出来る事をして頂く事により共同生活の一員として支援し合う関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、帰省の協力をして頂きながら、ご家族との絆を保っている。正月の帰省が困難な利用者には、ご家族の来荘を声掛けしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止対策により、近隣サロンの参加は中止している。ご家族との面会は、窓越しに様子を見て頂いたり、電話やライン電話で対応している。	入居者の住み慣れた場所でのサロン参加による交流が現在は出来ない状況もあるが、入居者個々のできる役割やこれまでの生活が継続できるよう支援している。新聞を読んだり、壁面に掲示する作品作り、手作りカレンダーに印をつけることを日課としたり、栗拾いやイネの収穫などを話題として楽しんでいる。入居者と職員のがご近所や地元からの入居である事等人的環境も馴染みの関係にある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、気の合う仲間作りもできている反面、トラブルが起こることもある。利用者間の関係性に注意しながらホールでの席の位置を配慮したりしている。また、個別ケアを重視してご本人のやりたい事を見出し、共同生活の一員として支えあうような支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所の為、退所されても利用者の面会を行っている。昨年は退所者3名が亡くなられ、ご葬儀に参列した。例年行われている初盆供養は今年は感染防止の為中止となった。ご家族が町内の所は御仏前にお参りし、町外のご家族には御仏前の品を郵送し施設の気持ちを伝えた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を伝える事が困難な方が増えており、日々の生活の中から、アセスメントを行っている。また家族から生活歴や本人の情報を聞きとり、本人が必要としている、思いや意向をプランに反映できるよう努力している。	意思疎通困難な状況、本意かどうか自分の気持ちを発する事等も難しい状況もみられ、表情や行動等を確認する事として、家族へ入居者の思い等を代言できるようにと努力している。職員はいつもとの違いを常に見ながら、少しの変化も見逃さないよう観察する力を発揮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及びご家族に聞いたり、入所前の担当ケアマネ―ジャーに聞いて情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者と同じ空間で時間を共に過ごし、観察や会話を多く持つことで状況を把握している。また、記録やスタッフとの情報交換の中から得る情報も多くある。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスでは、全員のモニタリングを行っている。また、介護計画書が現場で有効に活用される様、計画書は原案の段階でカンファレンスを行いチームで検討し、必要時は修正を行っている。	入居して1ヶ月は暫定プランとして、様子を確認したのち話し合う等課題を明確にして担当者会議を開催し、正式なプランを作成している。毎月全入居者をモニタリングし、半年もしくは1年で、見直し新たなプランを作成しており、本人・家族の意向が反映されたプランが作成されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケア日誌に生活の記録を行い、日勤者、夜勤者間の申し送り簿により情報交換を行っている。また、共有する必要があると思われる事は、申し送り簿ノートに記入したり写真をケア日誌に載せる事で事故防止に繋げている。またケア記録、スタッフとの情報交換の内容を支援経過にまとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中の利用者への面会、そのご家族との連絡や要望などで施設が出来る範囲であれば柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣地域のサロンへ参加し、楽しい時間を過ごして頂いている。地域の方と声掛け合う事で、暮らしの豊かさにつながるような支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医を重視し、ご家族の協力を得ながら、受診を行っている。また、スタッフが医療機関へ健康状態や日々の暮らしについて情報を提供している。受診が困難な場合は、訪問診療を依頼して健康管理に努めている。	本人・家族の意向を聞き取り、現在協力医である医療機関の支援を受けている。受診には看護職員が同行し、必要によっては家族と待ち合わせる等、協力が得られている。受診が困難な入居者には訪問診療に移行し、定期薬については家族に依頼し、病状を共有するとともに訪問の機会としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士は毎朝バイタルチェック、その他の状態観察を行い、異常があった際は常勤の看護師に報告相談し、必要に応じて受診するなど健康状態安定に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、職員が付き添い本人やご家族が安心される様に情報を提供する。また、面会を行い利用者の不安を出来るだけ最小限になるように心がけている。医療機関より情報を得て、御家族とも相談を行い、お互いの関係づくりに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りに対しては、老衰等ホームでの受け入れが可能な場合、本人の意思やご家族の考えを充分に検討し支援を行なっていく方針がある。本人、ご家族の思いに応える終末期を支援するために「緊急時及び重度化時の対応における、事前意思確認書」「終末期の医療についての事前調査」を作成し入所時並びに担当者会議の際にご家族の考えを書面で残している。	入居時に終末期ケアを説明し、家族の意向を確認し同意を交わしている。職員は法人の全体研修や看護職員を中心としたホーム内研修に参加し、看取りへの認識を深めている。医療中心になるとホームでは困難な部分もあるが、、訪問診療や看護職員を中心に看取りケアを行っている。	職員は終末期支援について家族の思いが変化するのは当然のことであり、機会あるごとにコンスタントに話し合いを持つ事が重要であるとしている。入居者・家族に思いに寄り添った終末期ケアに今後も大いに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や緊急時の対応マニュアル、緊急連絡網を作成し全職員への周知徹底を図っている。緊急時の対応については、看護師　かかりつけ医の指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体が福祉避難所でもあることから、真空の備蓄食の準備があったり非常食としてインスタント食品を利用者、スタッフも準備している。現在、昼間夜間想定火災避難訓練は、新型コロナウイルス感染防止の為実施できていない。毎月16日を災害の日として昼食時に利用者、スタッフ共に、非常食を食べながら、災害が起こった時の対策を考えながら、食事をとり確認している。また、部屋の入り口には、火災時などで避難した際、部屋に誰もいない事を確認した印として、手動のライトを設置している。7月の大雨の際は、地域の消防団の連絡により遅出者の帰宅が危険と判断し施設に一晩待機した。	これまでに日中を想定した火災訓練を実施している。また、コロナも一つの災害と捉え、法人全体でクラスターを想定した話し合いや、防護服の着脱を体験するなどの対策を講じている。防災については地域との協力体制が出来ており、この夏の水害時には地元消防団の協力が大きな支えとなり、道路の寸断を想定し、遅出職員がホームに泊まるなどの措置を講じている。母体である隣接の特養が福祉避難所であり、法人全体でマニュアル化する等危機意識を高くして有事に臨んでいる。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の支援にあたっては、尊厳やプライバシーに配慮する事を職員間で共有している。職員の守秘義務については入職時や会議の中でも周知徹底されている。	入居者への呼称は苗字や下の名にさん付けとしているが、同姓の方が多い地域性から、本人に馴染みのある出身地区名をつけて苗字に対応するなど、混乱を招かないようにしている。全体研修で倫理や法令遵守などについて共有し、入職時に守秘義務の誓約書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや自己決定ができやすいように分かりやすく説明しているが、理解力の低下がある利用者に対しても思いが出やすいように言葉かけを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を把握して、できるだけその方の希望に添える様に支援している。（体操、台所の手伝い、洗濯物たたみ、特養への散歩）		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面整容を行い、一緒に身なりを整えている。外出や行事の時は、洋服もおしゃれして頂いている。敬老式典で着る洋服は、正装をして式典に出席されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの好みを把握しており、日々の材料に取り入れている。また、野菜の皮剥きやお茶碗お盆拭きをお願いしている。家族、近隣から頂いた野菜は、必ず調理し、食事中の話題となりありがたく頂いている。	専任の調理担当者が週4日昼食作りに関わる他、全職員が調理を担当し、メニュー通りではなく食材を見て献立を決定している。食材は搬入業者だけでなく、地元の野菜や季節の味を求めて、地域の商店へも出かけている。入居者も野菜の下ごしらえやテーブル拭きなどを手伝い、時にはバイキング食を取り入れ、選ぶ楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については、献立のバランスを考えながら旬の野菜を中心に取り入れている。カロリー計算は、年1回本体の管理栄養士にお願いし振り返っている。嚥下障害の方の食事形態にはお粥　、刻み食、汁物にはトロミ剤を使用し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に歌をうたったり口腔体操を行い唾液の分泌を良くし、食事がスムーズに摂れるようにしている。食後の口腔ケアで異常の早期発見に努めている。異常時は、家族に相談し、受診往診をお願いしている。（月に1回本体歯科衛生士により口腔ケア指導）		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを共有し、トイレでの自立に向けて、機能を引き出すよう声掛けを行っている。日中はリハビリを兼ねて距離のあるトイレを使用する方や一人ひとりに合った尿取りパットを使用し、時間に合わせた大きさを工夫するなど個々に応じて支援している。（夜間ポータブルトイレ使用者あり）	入居者の自立を促し、声掛けや誘導により日中はトイレでの排泄を基本としている。現在、布パンツで過ごされる方もおられ、状況によってパットを併用している。夜間帯にポータブルトイレを使う方については、衛生的に管理しながら、気持ちよく使えるように配慮している。排泄用品は家族が持ち込まれており、負担を考慮しながら、購入時にはわかりやすいように同品の袋を持参してもらよう心を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理の中に食物繊維の多い食材を取り入れる様にしている。（さつま芋、ごぼう、麦、オリゴ糖など）また、乳製品や果物の提供も心掛けている。排便チェック表をみながら、内服薬も含め、排便コントロールに配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定者はバイタルチェックを行う。希望があれば毎日でも入浴可能。入浴剤の使用や季節に応じた菖蒲湯やゆず湯も行う。リフト導入により、車椅子の方も湯船の中に入る事ができ、ゆっくり入浴を楽しまれている。	週2回の入浴が基本ではあるが、入居者の希望があれば毎日でも入れるよう対応している。リフト浴の導入により、車いすの方も湯舟に浸かり職員との会話を楽しみながら、ゆっくりと入ることが出来ている。失禁時にはシャワー浴で対応したり、そのまま入浴に誘う等清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	地中熱の利用により、居室も自然な空調の為に、昼夜過ごし易い環境である。本人が、居室で休みたい時は、いつでも休む事ができる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については、全スタッフが把握しており、臨時薬がある場合は特にICT内の生活支援記録（服薬の記録、ケース、申し送り）にしている。臨時薬の投与後は病状の変化等にも全スタッフが確認に努めている。誤薬防止の為、与薬まで3回確認している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や特技、思いを日々の生活に活かせるように支援している。テーブル拭きや洗濯物たたみは日課となっている。朝食前の神様参りは、皆さんしっかり手を合わせておられる。9時過ぎから30分程の体操も日課となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでも本人の要望にそえるようにしているが、3月より、新型コロナウイルス感染防止の為病院受診を兼ねたご家族との外出をはじめ、地域のサロンや行事等にも参加できていない。	これまで続いていた地域サロンへの参加やドライブ、特養ホームでのボランティア見学や音楽療法の参加が中断されている。その中で職員は外出に代わる室内活動に力を入れており、季節の壁面飾りの準備や敬老の日の会食、夏祭りの縁日の雰囲気を楽しんでもらおうと“おたのしみ会”を企画する等など、工夫を凝らし、支援している。	コロナ禍の影響により外出は困難ではあるが、ドライブに出かけられている。コロナ収束後には、再びこれまでの外出の機会が持たれることが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆んどの利用者家族より現金を預かっているが、利用者の買い物は、スタッフが家族の代わりに行うこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ご家族に健康状態や生活の状況及びお知らせを毎月の手紙として送付している。電話は、希望に応じて取り次ぎをする体制はできており、その時は、ご本人に電話口に出て頂き、直接会話して頂く。面会に制限がある為、ライン電話で話して頂いてもいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からホールの空間に花を飾ったり、植物を置いて利用者の精神面の安定に努めている。また、馴染みの音楽や録画により心豊かに過ごして頂けるよう工夫している。壁面には、季節ごとに切り絵等を貼り、四季折々の雰囲気を味わって頂いている。	建物内は10年の経過を感じさせないほど掃除が行き届き、清潔が保たれている。外出の少なかった本年は、特に季節の花や手作り壁面飾りで室内中心の生活に彩りを醸し出している。台所での料理する様子を見いる入居者もおられる等音や料理の匂いが生活感を出し、地中熱等居心地よい生活環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファーやいすを設置し、いつでも過ごし易い空間を心掛けている。また、気の合う利用者同士が思い思いにゆっくりと過ごせる空間を心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や御家族との思い出の写真を飾ったり、好きなお花を飾ったりする事により居心地良く過ごせるように心がけている。衣替え時期には、家族へ持ち帰りや必要な物を依頼し、家族と一緒に居心地の良い居室環境に努めている。	居室にはベッドや整理タンスが備えられており、家族は入居前の説明により本人に必要なものを持ち込まれている。衣替え時期には家族に依頼したり、ホームで預かり衣替えを行う等柔軟に対応している。居室の広い掃き出し窓から外の景色を望み、避難口としても有効である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の名札や目印の人形、トイレ等に表札を掛けて、分かりやすい言葉で表示している。また、ホールや廊下には、危険になるような備品は置かないようにしてリスクの回避に努めている。		